

和歌山県那智勝浦町で発生した土砂災害の調査結果

調査日：平成23年9月14日、15日

メンバー：(独)土木研究所 土砂管理研究グループ 火山・土石流チーム

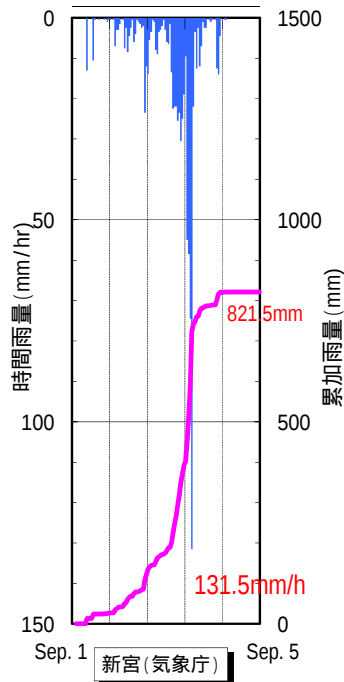
水野主任研究員、梶交流研究員 他

場所箇所：和歌山県那智川流域



那智川本川

- ・金山谷川では、大規模な崩壊が発生し、その崩壊土砂が土石流へと発達し、流下した。石礫型土石流であった。そのほかの流域では、表層崩壊に起因する土石流が発生していた。
- ・土石流の流入堆積により、流下断面が不足していた。特に、各支川の合流点や湾曲部で河床上昇が発生していた。



2011.09.14撮影



平成23年台風12号(TALAS)による土砂災害

那智川本川



那智川本川



護岸の基礎部周辺の河床が侵食された結果、護岸の破損が生じた。



金山谷川

崩壊地の脚部に残土が存在していた。中流部に石礫(直径1～2mが主)と土砂、流木が堆積していた。



金山谷川

金山谷川と那智川の合流点では、直径2～3m、最大で直径4m程度の巨礫が川道幅の半分程度を閉塞しており、また、合流点直上流の源道橋の桁下まで土砂が堆積していた。(ただし、調査時点(平成23年9月14日)でバックホウによる除石が始まっていた。)



鳴子谷川

- ・鳴子谷川にある砂防堰堤は袖部の上流側まで2m程度の巨礫を補足しており、満砂状態であった。また、本堰堤は損傷していなかったが、前庭保護工は損壊していた。
- ・那智川との合流点上流では、流木が橋梁を閉塞していた。

